

# 第1回釧路都心部まちづくり推進協議会（準備会）

## 議事要旨

■日時：平成30年7月25日（水）14:00～

■場所：釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

■出席者：別紙のとおり

### ■議事

- (1) 釧路都心部まちづくり推進協議会（準備）の位置づけ等・スケジュール・第1回協議会の論点
- (2) 釧路都心部まちづくり計画コンセプト
- (3) 釧路市及び都心部の現状・課題・ポテンシャルを踏まえたまちづくりの方向性
- (4) その他

### ■議事要旨

○コンセプトの実現に向けたアプローチの方法について

#### 委員

- コンセプト、基本方針の掲げ方は行政計画として問題ないが、この場では、この目標実現に向けて具体的にどうアプローチするかを議論することが必要。
- 観光という視点では、観光客はどのようなものを期待して来ているのかを考える必要がある。観光客がこのまちに来てみたら、まちに暮らしている人が楽しそうで、豊かな暮らしをしていて、その一部を経験してみたいと観光客が思うことが重要なのではないか。
- そういう観点から基本方針を点検し、目標にアプローチする議論ができれば良い。
- 例えば、基本方針の防災は重要で分かりやすい。都心部にある空きビルを困ったものと捉えずに、津波避難施設として役立つものとして捉える。普段は地域の若い人がそこで楽しく使えるようにすると考えれば楽しくなる。
- 30代くらいの若い人が全国で自主的なまちづくりを進めており、それをやると人が100人単位で集まり、物事が動いていく。そういう動きを私たちもどうしたらできるのか、またどう連携できるのか、作戦を立てていく必要がある。この場でそういうことへの材料を見せていただきたい。

#### 委員

- 観光がこの都市にとって重要な要素と感じている。まちが持っている様々な観光資源が市民のために効いているのかということのを掴まえて、効いているものを伸ばしていくことが第1ステップである。例えば、生産量の高い食料などの原材料をどう生かすか。そういうものをキャッチできるようなことを考えることも必要。
- 若い人が減っているという観点では、釧路で留まって勤める場所がないのではないか。若い人がここで育ったら、ここで勤めたいと思う場所をつくることも必要。まちのなかで小さな商いをしている人を集める、小さな何坪かの店を若い人に提供するなど、小さなことでも良いので、釧路の観光資源と結びつけて、どういうことができるのかを詰めてやっていくことが重要。
- 基盤については、防災の観点から新しいリスクに対応するように、また都心部を含めた交通ネットワークをシンプルに考えることはできないかという視点で、今ある基盤をどう工夫して使えるかを考えることが重要。
- 交通については、自動運転やドローンなど新しいテクノロジーの使い方を考えてプランに詰めていくとよい。

#### 委員

- 観光は期待が持てる分野という認識がある。都心部は釧路の顔というイメージもあり、ホテルが

集積し、長距離の観光バスや路線バスも発着している。都心部に来てから、来た方に対する期待に沿ったまちをどうつくるかということコンセプトにしっかり埋め込んでいく必要がある。

- この計画は、行政として必要な手続きをやりながらも、若い人たちのやり方をどうここに落とし込んでいくか、もしくは現実的な施策としてやっていくかは、もっと考えなくてはならない。
- 小さな企業であっても雇用につながり持続する可能性がある。そういったところを意識しながら、まちなかで機能させることが必要。

#### 委員

- 下水道（汚水）普及率は99.数%、都市公園は20㎡/人と国の基準を上回っている。それが整備から改築の時代に入り、公営住宅については管理戸数を6千戸から5千戸程度まで減らす計画をしている。
- そういうなかで、新しい公営住宅は避難ビルにしている。釧路の中部から西部は低地で、そういう場所に避難しなくてはならない事情がある。さきほどの都心部の空きビルを避難施設として活用していくという話を受けて、これからは今あるストックを維持管理、保全しながらどう有効に使っていくかということに視点を置いていく必要があり、それをどう都心部のまちづくりに結びつけていくかが今後の課題と認識している。

#### 委員

- 観光という観点では、長期滞在という取り組みをしており、年間2万泊、1,400人の利用があり、多くは首都圏、中部圏、関西圏から来ている。夏場の6～8月は住民票に載らないが、1,400人が都心部を中心に生活をしている。平成20年当初の17組31人から今は1,419人まで増えている。
- 長期滞在者による経済波及効果は約3億円の規模がある。長期滞在者は滞在中に床屋、クリーニング等に行くなど、消費活動が旅行者と違い住民に近い形で行われている。サークル活動や祭り等の行事にも長期滞在者の方を受け入れており、今日から市民という感覚で入っていただいている。一方、受け入れ物件が頭打ちで、新たな受け入れができないという課題もある。行政がインセンティブを出して、アパートを改造し、2年間優先的に使わせてもらう取り組みもしている。夏3カ月で稼ぐのは難しいので、釧路の四季折々の特徴（花粉ゼロ、秋口の安定した天候等）や、観光拠点としての特徴（1日（100km）圏で帯広、北見、網走、根室を周遊可能等）を売りに、どう広げていくかを考えている。
- 若者という観点では、釧路公立大学があり、18歳からの人口は流出もあるが、他地方から大学に入る学生ではほぼ均衡している。その方々が望む業務系を中心とした職を提供し、定住に結びつけていくことが課題であり、平成30年度にスタートするまちづくり基本構想では、地域経済の活性化として若者の雇用環境の形成に着眼している。
- 広域という観点では、釧路・根室圏域30万人の拠点都市として、医療、大学、高等教育などの高次的な都市機能がある。特に、医療は3つの総合病院があり、圏域全体から患者を受け入れており、医科大学や地元医師会と連携して高次医療の体制を構築している。そういった医療環境が長期滞在者に安全・安心を与えている。また、釧路市は行政・業務の観点で圏域全体の機能を持っており、圏域の都市機能、交通機能、交流機能をしっかりと確保していく必要がある。今年2月にオープンした図書館は、民間銀行のビルとタイアップして、民間ビルのフロアを30年間借り上げて、都心部の活性化、回遊性、広域的な利用を促進することを狙いとしている。
- 当時跨線橋ができてから交通の流れが大きく変わって、都心部の都市改造が一気に進んだという歴史的な経緯がある。都市の基盤や建物のサイクルが更新の時期を迎えているなかで、この議論は非常に重要である。

#### 委員

- 長期滞在するまちとしてターゲットしているということは、それだけ「食」「住」に魅力があるということ。その特徴を引っ張り上げるように、例えばカフェ、物販とか、その人たちが求めるようなものを磨いていくことが必要。
- 避暑地では、例えばサテライトビジネスというニーズもある。ネット環境があれば仕事ができる、在宅勤務できるという会社も増えている。そういう方にターゲットをあてて、少しずつやることで、避暑地で短期間ビジネスをするメッカという道が拓けるかもしれない。北海道でも特異的に気温が非常に低く安定する夏という特徴であれば、そこを磨いたら良いのではないかと思う。
- 医療環境という点では、日本では英語に通じる病院がすごく少ないのが現状。窓口で英語に通じる医者を集めるとそこにたくさん外国人が来る。拠点医療では、そういう海外の方のバックアップ体制として、英語に通じる病院というのもお客さんを安心して呼べることになる。

#### 委員

- 観光のことで先ほど色々申し上げたのは、長期滞在のようなことを申し上げたくて、既に取り組みされているということで、非常に心強く思う。また、余裕がある高齢者に加えて、ゲストハウスのようなものを渡り歩いている若い世代が釧路の魅力に反応してくれることが必要。

### ○連続立体交差事業の捉え方について

#### 委員

- 土木っぽいアプローチでストレートに行くやり方ではうまくいかないと思う。市民、若い方を含めて皆が是非やってくれという環境を作ることが必要。

#### 委員

- 連続立体交差事業というのは作り方の話。交通処理やコストパフォーマンスで必要性を説明しても苦しいし、決定打が無いから結論は出ない。また、そのようなアプローチだとワクワクしない。だから、こういうふうなまちにすると、みんな良いよねというアプローチやPRが必要。

### ○第2回準備委員会について

#### 事務局

- 第2回の準備会の日程は、11月上旬を目途に、後日皆様に連絡を差し上げて調整をさせていただきたい。次回の資料は、都心部まちづくり計画のたたき台、概要版を作成して、ご意見、ご助言をいただきたいと考えている。

#### 委員

- それを議論するにあたって、都心部で落ち込んでいる商業が、釧路市及び釧路都市圏全体として落ち込んでいるのか、単に中心から外へ出ているのかということを確認しておきたい。また、市民が最も利用している自動車がどんなふうに使われていて、そのなかでバスはこういう方に絶対必要だからこういう交通結節機能が必要というように、全体を捉えた問題が分かるように資料の補強をしていただきたい。

以上

## 釧路都心部まちづくり推進会議（準備会） 出席者

	団体名・所属部署名		役職	氏名	備考
委員	有識者	三菱地所株式会社	顧問	松井 直人	
		法政大学デザイン工学部 都市デザイン工学科	教授	高見 公雄	
		北海道大学大学院 公共政策学連携研究部	教授	高野 伸栄	
	釧路市	総合政策部	部長	岡本 満幸	
		都市整備部	部長	伴 篤	
		産業振興部	部長	秋里 喜久治	
		産業振興部	観光振興 担当部長	吉田 英樹	(欠席)
	オブザーバー	北海道開発局	事業振興部 都市住宅課	課長補佐	谷 聡
北海道開発局 釧路開発建設部		道路計画課	道路計画課長	小林 孝士	
北海道建設部 まちづくり局		都市環境課 街路グループ	主幹	松田 雅宏	
北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部		事業室道路課	道路課長	足立 浩	
北海道旅客鉄道 株式会社		総合企画本部 地域計画部	主幹	羽山 さえ子	
事務局	釧路市	総合政策部	都心部まちづ くり担当部長	渡辺 亮	
		総合政策部都市計画課	課長	吉岡 亨	
		総合政策部都市計画課	課長補佐	横田 倫典	
		総合政策部都市計画課	専門員	山田 智史	
	公益社団法人 日本交通計画協会				